



自分達のくらしと税金の関わりについて考える

三川町立押切小学校教諭 6学年 加藤 岳史
実施年月日：令和5年6月19日～6月30日 20名

1 実践計画・指導のねらい

子ども達は震災復興のための政治の働きの学習で、国や地方公共団体が行う活動には国民が納める税金が使われていることを学習した。しかし、税金を身近に感じている児童は少なく、なぜ税金を納めなければならないのか疑問にもつ児童もいた。そこで、身近な生活場面での税金の使われ方について調べる学習を取り入れた。また、子ども達にも深く関わりのある消費税をテーマにお互いの考えを話し合う場面を設定した。18歳になると選挙権をもつ子ども達。税金の大切さについて考えると同時に、少しでも政治に関心をもてるような学習活動を計画した。

2 単元構成・実際の指導状況

時間	学習内容	主な発問(○)、こどもたちの反応(●)、使用教材等(□)
1	・自分達のくらしの中で税金はどんなことに使われているか調べる。	○ 税金は私たちのくらしの中でどんなことに使われているのだろう ● 町の建物では、消防署や交番などに税金が使われている。 ● 学校にある教科書やタブレット、机・イスなどには税金が使われている。 □ 使用教材名 副教材「わたしたちのくらしと税金」
2	・消費税の増税について考え、公約の内容を踏まえ、どちらの党に投票するか考える。	○ 消費税の増税について、自分の考えをまとめ、投票してみよう ● 消費税が高くなってしまおうと払うお金が増えるからとても大変。 ● くらしを豊かにするために、消費税をもっと上げたほうが良い。 ● 消費税は上げずに、お金の使い方を考えるべき。 □ 使用教材名 副教材「わたしたちのくらしと税金」
3	・租税教室で税金の使われ方について学ぶ。 	○ 税金がなくなった世界はどうなってしまうのか ● 道路や橋が壊れればなしになってしまう ● 消防活動にお金がかかってしまう □ 使用教材名 DVD (マリンとヤマト 不思議な日曜日) 1億円レプリカ
4	・税金について学習したことをふり返り、絵はがきを書く。	○ 学習したことをふり返り、絵はがきを書こう ● 「税金のおかげでいつものくらしがある」ということばを入れたい。 ● 自分達の生活は税金と深く関わりがあることが分かるイラストを描きたい。 

【指導のポイント】≪1時間目≫

導入では、「税金はそもそも必要かどうか」を問かけ、税金の必要感について考えさせることで、自分なりの税金のイメージをもてるようにした。

【指導のポイント】≪2時間目≫

仮の政党の公約として消費税増税を扱い模擬選挙を行った。選挙を取り入れた活動を行ったことで政治と税金の関わりを捉えることに繋がり、税金の大切さだけでなく選挙に行き、代表者を選ぶことの大切さ考えている児童もいた。

【指導のポイント】≪3時間目≫

単元の導入では税金の必要感について考えた。租税教室では、映像教材を通して、税金のない世界のくらしについて知ることができた。税金は自分達の生活に欠かせないものだということを理解することに繋がった。

3 実践の成果(◎)と課題(◆)

- ◎ 消費税の増税と選挙を絡めて学習を行い、選挙では代表者を選び自分の意見を政治に反映させようとするのが大切だと理解することに繋がった。また、子ども達の社会参画の気持ちを高め、租税教室でも選挙の大切さに触れて頂き、子ども達も自分の意思を述べることの大切さを感じることができた。
- ◎ 事前にいただいた資料を副教材として活用したり、映像資料を用いたりすることで、効果的に税金の大切さを伝えることができた。
- ◆ 自分達の生活している三川町ではどのように税金を使っているのかを考えさせ、調べることができたらより自分事としての学習になったと思う。
- ◆ 単元計画の中で、租税教室後の模擬選挙を実施することでくらしと税金の関わりをより身近に感じることができたとと思う。講師の方の話や映像資料に触れ、より深まった自分の考えをもとに話し合う時間を十分に取れたかった。